

いわき建築士

IWAKI-KENCHIKUSHI No.31 2014

平成26年1月1日発行
社団法人建築士会いわき支部会誌

January

目

次

- 支部長挨拶 「第57回 建築士会全国大会 ふくしま大会」を迎えて
(社)福島県建築士会いわき支部長 蛭田修二 2
(有)蛭田修二建築設計事務所所長
- 特別寄稿 「管内の復旧・復興状況について」
前いわき建設事務所長 宮崎典男 4
現いわき市副市長
- 故きを温ねて・・・
～ヘリテージマネージャー育成の取り組み～
(一財)福島県建築安全機構専務理事 齋藤隆夫 5



小名浜外洋にて「千石船といわきマリンタワー」
福島民報社提供

特集テーマ

「いわきの復興Ⅱ」

いわき市豊間復興協議会事務所づくりワークショップ

＜支援者と住民協働で建設した自信が、復興へと繋がる＞

(有) 連健夫建築研究室 ^{むらじ}連 ^{たけお}健夫



福島県いわき市豊間地区は東日本大震災の津波で85名が亡くなり、607戸の内、416戸の住宅が全壊、市内最大の深刻な被害を受けた。2011年8月に「ふるさと豊間復興協議会」が設立された。しかし応急仮設の事務所は雨漏りがする状況、また住民が話し合うには狭い建物であった。そこで東京の支援者グループ*の呼びかけで、皆で力を合わせて新しい復興協議会事務所を創ろうということになった。

■費用をどうするか？（補助、拠出、寄付、支援、皆で建設）

まずは提案ことが大切との思いから模型を作って協議会に持参した。メンバーの顔が明るくなった。大賛成、創りたいのはやまやま、しかしお金をどうするのか？早速、スケッチに仕上や仕様を記入し、南会津の工務店**に連絡し、概算をしていただいた。それをもとに東京支援グループで検討した。いわき市から補助金、豊間区から拠出、木材の一部は南会津町からの物資支援、設計は支援（筆者）、組み立ては学生ボランティアと住民で行う、しかし、それでも足りた状況だ。そこで東京支援グループで寄付金を集めることになった。

■建物の工夫（誰でもが組み立てられる木造パネル工法）

建物は地震に強い形として六角形を採用、水平応力を全体の壁で支えることができる。誰でもが組み立てられるよう木造パネルで設計した。木造パネルは大、小、筋交入、筋交無の4種類で壁、屋根すべてが構成できるような寸法調整をした。屋根は単純な山形であるが、4隅の柱は地元産の「びやくしん」という趣のある樹種を用い、地域性を反映させた。

■建設ワークショップ

第一回（2012年5月12～13日、地元18人、支援者22人参加）はパネル組立てワークショップ、パネルは事前に工務店が製作、当日持込まれた。それを地元と支援者で協力して組み立てる。接続はボルトナット、技術が無くても組み立てられる。上棟イベントとして外壁の色の投票を実施、青色が1番となった。投票も参加の機

会である。第二回（5月26.27日地元48人、支援者12人参加）は新聞詰めワークショップ、壁に断熱材代わりに古新聞を丸めて詰める。多くの古新聞が集まる。ワークショップに参加できなくとも古新聞を寄付することも参加である。おばちゃん達は輪になって世間話をしながら新聞を丸め、とても楽しそう、協議会の方は「震災以後、あのような笑顔を見るのは始めてだ」と喜んでいただいた。第三回（6月2、3日、地元45人、支援者21人参加）は塗装ワークショップだ。塗装は楽しい作業、道路側の壁は子供たちに自由に絵を描いてもらった。竣工イベントでは、支援側の高見澤代表から鈴木区長に寄付金目録が渡された。

■災害公営住宅ワークショップに繋がる。

このワークショップは、その後の災害公営住宅ワークショップに繋がっていく。住民と支援者が一緒に創った経験を共有することにより、支援者と住民との間に信頼関係が生まれた。また行政主導ではなく、住民と支援者による協働事業を目に見える形で実現できたことにより「やればできる」という自信ができたことが大きい。事実、災害公営住宅のワークショップでは、このワークショップに参加した住民も多く、住民の自発的意見を聞くことができた。この成果は報告書としてまとめられ、協議会から市に提出された。しかしながら、広場の設置や広場に隣接して集会場を設けることなどの要望は受け入れられたが、受け入れられなかったことが多々ある。地元、建築士会の協力は大きく、地元の実情を知る専門家として、東京の専門家とうまく協働する中で、要望の実現に向けて努力していただいていた。それがゆえに、一見60年代の公団住宅を連想する無機的な平行配置とデザインが、この時代において出現することは残念だ。ただ、その一方、住民にとっては仮設住宅から安定した公営住宅に住むことができる重みを捉えることも大切と考える。

* 再生ふるさと豊間東京支援グループ：東京都立大学卒業生中心の支援グループ（高見澤邦郎代表、山本忠副代表、佐藤俊一郎事務局長）

** 大桃建設工業